



できることは身近に、ボランティアを始めませんか



2時間ほどのゴミ拾いにもかかわらず、相当量のゴミが集まった。

10月4日に港区の新橋駅周辺で行われたゴミ拾いボランティア。空き缶、たばこの吸い殻など、分別しながら拾っていく。

ボランティアをしてみたいけど、とりあえず何をすればいいのかわからない。そんな人も多いはず。でも、思い切って始めたら、きっと楽しいはず。まずは、チャレンジあるのみ。

●●●●●
チャンスがあれば、誰にもできる

東京の最新スポット「シオサイト」(港区・汐留)に集まった約30名の若者。何をやるのかと思いきや、ゴミ拾いとのこと。

これはアートディレクターの水谷孝次さんが行っているコミュニケーション・アート「Merry Project(メリープロジェクト)」の環としてゴミ拾いボランティアを呼びかけたもの。港区役所などと協働して、新橋駅周辺のゴミ拾いを行った。「何かしたいけど、何をしたいかわからない。そんな若い人たちが、こうしたチャンスさえあれば喜んでボランティアに参加してくれる。誰にだってできることなんです」と水谷さん。

●●●●●
興味から行動へ移すには

「ボランティアをしてみたい、という問い合わせは、月に500〜600件はあり「ますよ」と話すのは、東京ボランティア・市民活動センターの佐藤新哉さん。問い合わせの多くは、興味はあるけど何をしたいかわからないというもの。そのために、せっかく関心がわいたのに躊躇してしまう人も多いそう。

「テレビで災害救援活動を見た、いま住んでいる町をきれいにしたいなど、何でもいい。まずは興味を持ったきっかけを思い出して下さい。ボランティアは、自ら考え、行動を起こすことに意義があるんです」と佐藤さん。

あとは最寄りのボランティアセンターに相談してみたり、イベントに参加したりして自分に合うか見極めればいい。

●●●●●
ボランティアを続けるには

せっかく始めたのなら、長く続けたいところ。なにか秘訣はあるのだろうか。

佐藤さんは話す。「楽しめるものを探すことが大切です。昔前はボランティアといえば福祉のイメージが強かった。もちろん福祉も大切ですが、他に文化活動、環境保護、防災活動、国際協力、スポーツ、教育など、さまざまなジャンルがあります。さらにそのなかでも、専門的な技能をいかすものもあれば、力仕事を手伝ったり、地道な資料整理が必要なものもあるでしょう。そうした多様性もボランティアの魅力です。どんな活動にも共通するのは、自分なりの関わり方を探すという点ではないでしょうか」